

平成 28 年度第 2 回古賀市健康づくり推進協議会議事録（要旨）

1. 開催日時 平成 29 年 2 月 28 日（火）19 時～21 時

2. 開催場所 サンコスモ古賀 203・204 会議室

3. 会議次第

1. 保健福祉部長あいさつ
2. 協議事項
 - ①平成 28 年度ヘルスアップふらんに基づく重点分野の
取組実績について
 - ②ヘルスアップふらん第二次策定計画について

4. 出席委員 古賀市健康づくり推進協議会委員

出席委員：12 名

欠席委員：3 名

5. 傍聴者 無

6. 議事概要 ①平成 28 年度ヘルスアップふらんに基づく重点分野の
取組実績について

②ヘルスアップふらんアンケート（案）について

- ・ 5 年間の取組の評価
- ・ アンケート調査の結果について
- ・ 古賀市健康づくり 100 人ワークショップについて
- ・ 計画策定スケジュール

健康づくり推進協議会での質疑応答・意見交換

	①平成 28 年度ヘルスアップぷらん重点分野の取組実績について 家族コツコツ健康づくり事業測定実績一覧
三好委員	企業関係の測定結果の概算などはあるか？
吉田主幹	詳しい分析までは至っていないが、高齢者・若い母などが低い傾向にある。測定結果を見てショックを受けた方は、「自分の子どもにはこんな思いをさせたくない」と意識を変えられるので、そういう点に測定の意義があるのかと思う。ただ、医学的なデータの分析までは至っていない。
三好委員	企業で測定された方たちの結果の傾向は？
吉田主幹	骨密度は悪くないが、血圧などの他の項目が悪い方が多い。脳梗塞の既往があるなど管理できていない方もいる。骨よりも、糖・脂質代謝などに問題が多い印象がある。
三好委員	測定をすることによって、とても意識付けになるのでよいことだ。
吉田主幹	継続していきたい。
堤委員	スタンドアローン事業とは？
吉田主幹	中学生対象の無料の学習支援事業のひとつ。勉強だけでなく、社会学習や健康についての学習もあり、その一環で測定等も実施している。
江口委員	データをたくさん取っているが、その分析は？結構測定人数が多いので、もったいないと感じる。分析をすることで、生活習慣と骨密度の関連や地域差などの課題がわかる。そうすることで、重点的・効率的に活動ができるのでは。
吉田主幹	おっしゃるとおり。現在は測定で終わっているため、個人が生活習慣を振り返るもの（問診やシートなど）が必要だと感じている。結果で一喜一憂するのではないことが大切。

江口委員	現在データヘルスが全国的に広がっている。大規模データを分析する仕組みつくれば、地域・企業の特徴を明らかにすることができる。将来的に必要なになるので、視野を広げてはどうか。
堤委員	効率的に事業をやるには分析は必要。がん検診実施の結果罹患率がどうなったか、子どもへの介入によって将来成人した際にどのような生活になるのかなど、見ていかねばならない。
堤委員	広報こがについて このように情報を市民に還元できるかという点が大切。花鶴丘3丁目の活動（うどん屋さん）の塩分濃度はどのくらいか。
吉田主幹	塩分濃度は0.7～0.8%で作ってある。うどん屋の発端は福社会活動で、「外食するくらいなら公民館で集まって、地域で顔見知りの関係を作ろう」という声があがったこと。独居の方に民生委員が個別で誘ってもなかなか来ないが、「うどん食べにおいで」という声かけだと行きやすい。作るなら健康面も考えてということで、塩分に関してはあとから実施しはじめた。
堤委員	実際に自分が患者に指導するときは、外食などをした際にソースをかける人は濃いめだと説明している。自分の味覚を主観的に知ってもらうことが大切。
堤委員	特定健診・がん検診について 少しずつ受診率上がっているようだが、市民の受診後の感想はどうか。
村上主幹	健診後に結果を気にする方や、受けてよかったという声も多く聞く。
藤崎委員	健診の継続受診の状況はどうか。
村上主幹	最新のデータはまだ出ていない。
三好委員	受診率が上がっているため、とても努力されたのだと思う。資料の中に実績を入れていただくと助かる。
堤委員	糖尿病予防教室について HbA1c5.6～6.4 かつ空腹時血糖 125mg/dl 以下という条件があるが、これはHbA1c5.6 で血糖値が 99mg/dl でも該当なのか。

村上主幹	該当する。
堤委員	血糖値が 80mg/dl でも該当か。
村上主幹	該当する。
堤委員	血糖値が 80mg/dl でも該当か。
村上主幹	どちらかで該当するようにはしている。
堤委員	分析は出ているか。
村上主幹	今年度分はまだ出ていない。
松尾委員	H25 年度から 3 年間継続して実施しているが、今回 OB 会を実施するにあたり受講者の HbA1c がどのように変化したかをみた。結果、改悪した者が 50%、維持した者・改善した者が各 25%であった。また、OB 会に来る人の 8～9 割は HbA1c 値が良い。OB 会に来ない人の実態が心配だが、そのあたりは行政がしっかりチェックされるのではないかと思う。 HbA1c が少し高い人は意識が高い。1 年目の受講者は改善度高く、半数近く維持・改善している。HbA1c はそうでもないが食後血糖は大変高いという方は、教室でこの現実直面し、健康行動に移るのではないかと感じた。
堤委員	失敗に学び成功に結びつけることが大切。改善した人はどこに視点を置いて改善やモチベーションに結び付けているのかを明らかにすると、私たちも良い事例として話すことができる。
松尾委員	正月とクリスマスをはさむ厳しい状況だったが、みなさん意識が高かった。
江口委員	正月とクリスマスをはさんでよい結果だったというのは素晴らしい。この時期は大体食生活が乱れがちなので、結果は悪く出ることが多い。
村上主幹	年末前には食生活に気をつけるよう十分に伝えた。また、グループ内でも「年末は頑張ろう」と互いに励ます様子も見られ、モチベーションの維持に繋がったかと思う。

堤委員	浅野先生に講話を依頼しているようだが、受講者の理解はどうか。医師によっては話が難解でわかりづらいこともある。受講者が理解できるかどうかが大切。
松尾委員	浅野先生の話はわかりやすい。また、自分の体の状況など最初はおぼろげだったことが、回を重ねるにつれて頭の中で整理がついてきている。知識・生活・行動が繋がっている様子が見られる。
堤委員	糖尿病予防教室の定員をもっと増やしてはどうか。これ以上患者は増えるばかりで減ることはない。市としても検討をお願いしたい。
三好委員	胃がんリスク検診について 大変先進的な取組み。検査をするということだけでも随分違うので、これからは是非続けてほしい。
堤委員	胃がん検診に詳しい先生によると、ピロリ菌による胃潰瘍は二次除菌までは保険がきく。それでもなおかつ胃潰瘍になる人は、相当なストレスがあるか薬剤性だと言っている。治せる疾患ということなので、是非広くみなさんに受けていただきたい。せつかくなら、20 歳以外で漏れてしまった人をすくい上げる策があればと思う。
江口委員	学校の取組について ヘルスリテラシーについての教育の予定・計画はあるか。
吉田主幹	学校現場でメディアとの付き合い方を実施している。
堤委員	薬物乱用についての講座を依頼されたことが何度かある。いろいろ探したが十分な資料があまりないので、ある程度の内容しか話せないことにもどかしさがある。もっとよい資料があればと感じる。
村上委員	講師を探すのが非常に大変。教科書にも資料はあるが、警察など専門の方に来てもらうと子どももより身近に危険を感じやすい。しかし、依頼できる人材がいなことにもどかしさを感じる。
江口委員	企業との取組について 行政と企業がこのように連携しているところはなかなかない。是非この取組を続けてほしい。

藤崎委員	昨日、宗像遠賀地区の保健所の地域職域の連帯会議に出席してきたが、そこでは企業との連携はされていなかった。また、二次検診・フォローがほとんどされていない状態。株式会社正興電機では 10 分フィットネスを実施している。食事と運動と連動しているようなので、是非みていただきたい。
堤委員	野菜もりもり応援店について 具体的にどんな取組をしているのか。
辰市主事	1 食あたり野菜を 120g 以上ある店舗等を認定し、「健康的な食事ができる店」として認定店を P R している。
江口委員	最近全国的に自治体でこのような取組をしているところが増えている。先んじてやっていることは素晴らしい。
堤委員	利用者の声はどうか。
辰市主事	アンケート等とはっていないため、具体的な利用者の声はまだ聞いていない。住民の方から直接聞いた分のみである。
堤委員	これを広めていくためには、助成等があれば店舗も売り込みやすいのではないかなと思う。
江口委員	人材育成について 横の連携とりながら流動的にやっていくことは必要。ぜひ続けてほしい。
堤委員	音楽ボランティアとは。
吉田主幹	鍵盤ハーモニカを通じた仲間作り。さらに、肺活量を鍛えることで介護予防にも繋がっている。
松尾委員	人材育成について。それぞれの団体の活動をどこかで披露・報告する場はあるのか。公衆衛生協会賞も、みなさんの活動の積み重ねでいただけたのだと思う。このような方の活動が古賀市民の目に触れる場面を作ることで、さらに活動が広がっていくのではないかな。ぜひ実績を報告・評価しあう場を作っていただきたい。
吉田主幹	昨年度は合同研修で各サポーターがどんな取組をしているかという紹介する機会を作った。ただ、もうひとつステージを上げたような活動の報告会までには至っ

	ていない。また、次期計画策定にあたっては市民参画が重要だと考えている。市民と行政が役割分担し、評価できるような機会をつくっていききたい。
江口委員	松尾先生の話に同感。この 5 者会議の中にぜひ広報を入れてほしい。市民にサポーター活動を発信し、認知・褒めてもらうことが大切。また、行政区別のサポーター数一覧は回覧できないか。遠まわしの競争意識が働くのではないか。
吉田主幹	以前、区長会でお見せした。危機感持たれた方もいたが、「名前を教えてほしい」など活動を急かすような声が上がった。サポーター本人たちの意向もまだ確認できないため、難しいところがある。競争は煽りたいが、変に取られる可能性がある。
三好委員	サポーターの表彰制度はないのか。市長等から表彰状もらとうれしく、誇りに思う。
江口委員	表彰された方を広報に掲載するなどすれば、やる気に繋がる。
中村課長	先日公衆衛生協会から表彰を受けた。古賀市としての表彰であったが、市民のみなさんの力で認められたもの。みなさんに表彰を受けてもらいたいという思いから、市長からヘルスステーション設置区の代表者と健康づくり推進員の代表者に表彰状をお渡しした。このような喜ばしいことを行政と市民で共有できたよい機会だった。このようなことを心がけながら、活動を市民に見えるようにしていきたい。
松尾委員	活動をしている人たちは、地域をよくしていきたいという気持ちはあるが、自分の地域でやるのは気が引けるという方も多い。地域に自然に入っていけるような状況を行政が作ることが大切。これが進めば、ヘルスステーションもっと広まっていくのではないか。
堤委員	自殺予防対策について 第 4 回ゲートキーパー研修会の周知は。
吉武係長	チラシについては全戸配布、区長会・福祉会・民生委員会の会議で周知をした。また、教職員への周知も校長会を通じて行った。 全体をとおして 【堤委員】 各事業の結果を分析して、どのような形で市民に還元するか、次のステップに進むかを課内で考えていただきたい。

藤崎委員	②ヘルスアップぷらん第二次策定計画について ヘルスアップぷらん第一次最終評価について 5 者連携会議にスポーツ推進委員も入れていただきたかった。部を越えた協議が必要。昨年 7 月に高学年を対象に「こがっ子スター」を実施し、体力が上がった実績がある。学校の方針が具体的に出ているので、学校もそれに併せて実施してもらえれば地域差が出ると思う。
福岡委員	学校の規模・都合によって差が出てくるので、なかなか難しい部分もある。
堤委員	アンケート結果について これからアンケート結果の数値がどうなっていくか。あくまでもアンケートに回答した方の変化しか見えないが、足りているもの・足りないものが見えてくるかと思う。分析の結果を待ちたい。
江口委員	計画策定スケジュールについて 古賀市健康づくり 100 人ワークショップは素晴らしい取組。市民中心という視点・市民から意見を出してもらうことは大切。自分たちのものという所有感はや欲の向上につながる。そういう意識に持ってってもらいたい。 また、健康になってどうするのか。その先何を見るのかという視点で議論してもらいたい。地域が豊かになる・幸せになるためにはどうするのか。その中に病気でないことが位置づけられる。疾病予防はあくまでも一部分。単に病気の予防についての話になると、意欲は続かない。「自分が地域でどう豊かに過ごすか」という視点を引き出すように持って行ってもらいたい。 「計画の柱」について。健康行動と非健康行動を分けてはどうか。「まもる」をベースにし、「たべる」、「うごく」、トップが幸せになるともっとよいのでは。
松尾委員	小学生の肥満傾向児の状況が学年によってはひどい状況でとても驚いた。地域差はあるが、子どもたちがあまりに動かないことに愕然とした。このあたりをどのように取組むのかも含めて計画を考えてもらいたい。
堤委員	現在の子どもは運動する子・しない子ときれいに二極化している。
三好委員	アンケート結果を見ると、学校によって取組に差がある。もっと教育委員会と連携したほうがよいのでは。同じ取組でも、それが教育委員会経由であれば学校現場の取組方は違ってくる。それが子どもたちの健康のために必要なことであれば、理解していただき、教育委員会と連携が必要。

	保育園も同様。園独自の同じ方向性をもつことが大切。ひいては保護者のためになるような広がり方にもっていくといいのでは。
藤崎委員	山鹿市はハンドボールの世界大会があるということで、小学校はハンドボールをやるということを市がひとつの目標に向かってやっている。古賀市もひとつ目標をもち、市の施策としてどの学校でも同じようにやれば、地域差も出る。ひとつの方向性を持って健康づくりをすすめてほしい。
福岡委員	噛むことについて。小学校の歯磨き教室で子どもを見ていると、かめていない子どもが多い。「何を食べるか」ということも大事だが、「いかに食べるか」という教育が抜け落ちていては食育の意味がない。食育には「噛む」という視点を常に見つめながらすすめていただきたい。 子どもの運動について。青柳小は送迎が多く歩いていない印象。自然に触れるなど通学時間は貴重な時間。教育委員会を通じた保護者の教育の大切さを感じた。
松尾委員	小学校の保護者会で子どもの健康教育の結果を返した。アンケートからは保護者自身も子どもへの健康教育をしなければという様子がみられた。先生方の授業と私たちのコラボも可能だと感じた。親子だけの関係では難しい部分もある。教育委員会と繋がって親子教育ができるのではないかな。
村上委員	給食時間は準備時間等を除くと正味 20 分。偏食や咀嚼、コミュニケーション形成等さまざまな教育要素が含まれている。 課題解決のため学校と家庭間ではしているが、地域は巻き込めていない。外部からもさらに声かけしていただくことで感じ方も違ってくる。行政は地域と学校との橋渡しの役割をしてほしい。
中根委員	古賀市健康づくり 100 人ワークショップについて、いろいろな立場の方が来られるが、意見はまとまるのか。
吉田主幹	まずは古賀の実態を共有し、その中から自分たちができることを見出していく。最低限古賀市で取組むというスローガンを掲げる予定。現在バラバラで動いているサポーターのベクトル合わせをし、整理をしていきたい。
江口先生	まとまらなくてもよいのではないかな。意見の吐き出しが大切。その中で違う分野の方と交流し、仲間作りができれば、大成功だと思う。